

目 次

■まえがき	1	第3章 新思想としての科学技術	87
■編集方針・凡例	2		
序章 総説	9		
第1章 国家組織の整備	15		
*資料			
1-1 度量衡法制定経過	17	3-1 学界の大革新	88
1-2 帝国大学の実態	25	3-2 団事務長トノ談話要点	90
1-3 赤痢病予防に付質問	28	3-3 欧米巡回取調書感覺録抄	93
1-4 皇漢医の衰滅	30	3-4 技術家ノ独立切迫セリ	95
1-5 海軍省予算案論議	40	3-5 我が国工学者社会に望む	96
1-6 海軍省年報抄	47	3-6 高峰讓吉氏を訪ふ	97
1-7 東京砲兵工廠	54	3-7 科学ト哲学	100
1-8 軍事上電気ノ用途	58	3-8 進歩か退歩か	104
1-9 日清海軍の比較	61		
1-10 国防論	63		
第2章 工業化へ	65	第4章 第1次の機能分化	107
*資料			
2-1 電気発動機ノ説	68	*資料	
2-2 琵琶湖疏水の利用	69	4-1 農商工高等会議	109
2-3 電気燈案内	72	4-2 戦後の海運に関する意見書	115
2-4 乾電池の發明	75	4-3 造船、航海奨励法をめぐって	117
2-5 日本水車ノ説	76	4-4 種痘法制定経過	125
2-6 芝浦製作所を觀る	78	4-5 国勢調査に関する法律案	134
2-7 労働者問題と衛生公法の關係	80	4-6 伝研補助建議	137
2-8 労働者の声	82	4-7 各種教育・研究機関設立建議	148
		4-8 測候所増設と富士山頂観測	157
		第5章 教育・研究の整備	163
		*資料	
		5-1 学問論	165
		5-2 学位令と新博士	169
		5-3 東京帝国大学批判	171
		5-4 京都・九州・東北帝国大学	176
		5-5 大学増設の急務	181
		5-6 実業教育論	187
		5-7 実業教育に関する質問書	190
		5-8 明治三十三年除夜世紀送迎会に於て	200

第6章 工業の成長 203

*資料

6-1 足尾銅山鉛毒問題..... 205

6-2 公害問題..... 210

6-3 内国勸業博覧会..... 216

6-4 製鉄所官制まで..... 223

6-5 製鉄所官制公布..... 231

6-6 化学工業の一例..... 235

6-7 産業政策論議..... 237

6-8 産業合同論..... 242

6-9 職工事情抄..... 249

6-10 職人と徒弟..... 252

6-11 工業革新ニ関スル建白..... 256

第7章 海外への指向 259

*資料

7-1 探検及び移住の方針..... 260

7-2 福島安正の旅行..... 263

7-3 郡司成忠伝跋..... 267

7-4 朝鮮国の起業..... 269

7-5 殖民事務に医学の応用..... 270

7-6 対新領地策..... 273

7-7 技術家の手腕を試むべきの地..... 275

7-8 製糖業の発展..... 276

7-9 日本語学校の設置..... 280

第8章 強兵策の推進 289

*資料

8-1 二宮忠八上申書..... 292

8-2 臨時軍用気球研究会..... 292

8-3 空中飛行機に関する質問と航空学講座設置に関する建議案..... 296

8-4 軍艦三笠と小田式水雷..... 300

8-5 日本海海戦評..... 302

8-6 日露戦役後の海軍..... 305

8-7 壮丁体格の傾向..... 311

第9章 第2次の機能分化..... 315

*資料

9-1 各種の衛生行政..... 317

9-2 電気事業法制定経過..... 325

9-3 電気測定法制定経過..... 329

9-4 発電水力調査事業一斑..... 331

9-5 鉄道国有法制定経過..... 334

9-6 広軌改築問題..... 337

9-7 港湾改良に関する建議案..... 344

9-8 高層気象観測・鉱業試験所・陶磁器試験場..... 347

9-9 北海道帝国大学設立前後..... 351

9-10 第1回学士院賞と学術発明表彰に関する建議案..... 352

第10章 工業の成熟と拡大..... 359

*資料

10-1 鉄鋼政策..... 361

10-2 石炭業界の実情..... 366

10-3 ビール業界の実情..... 368

10-4 企業合同の実情..... 371

10-5 鉱業公害問題..... 374

10-6 都市公害問題..... 386

10-7 大陸進出論..... 388

10-8 東洋拓殖株式会社法案..... 393

10-9 大陸への産業進出..... 396

10-10 日本の社会主義者は何を要求すべきか..... 403

10-11 工業国としての日本..... 404

第11章 工場法の成立 411

*資料

11-1 第1回農商工高等会議での労働者保護・取締り立法反対論..... 413

11-2 職工条例に関する論調..... 416

11-3 第3回農商工高等会議での工場法案可決まで..... 417

11-4 明治31年諮問の工場法案に対する批評..... 421

11 - 5	工場取締及工業に従事する労働者の 保護に関する建議案……………	424
11 - 6	明治35年発表の工場法案に関する論 調……………	425
11 - 7	第25, 26回帝国議会議会ごろの工場法案 に関する論調……………	437
11 - 8	工場法案に関する世論一束……………	445
11 - 9	明治44年議会議会提出の工場法案とそれ に対する批評……………	449
11 - 10	工場法案の可決……………	454

第12章 国民と科学者 …………… 461

*資料

12 - 1	博物館……………	463
12 - 2	名和昆虫研究所……………	46 ₉
12 - 3	介類雑誌発行の主旨……………	470
12 - 4	理学界抄……………	472
12 - 5	理科の精神……………	474
12 - 6	ヘチン博士の言行——文明の志士を 論ず……………	475
12 - 7	南極探検……………	477
12 - 8	登山に就きて……………	482
12 - 9	科学の啓蒙と普及……………	483
12 - 10	千里眼事件……………	488
12 - 11	数学の教育を如何にす可きか……………	497
12 - 12	少年工芸文庫……………	500

第13章 科学・技術者の思潮 …………… 503

*資料

13 - 1	国家と理学……………	504
--------	------------	-----

13 - 2	生物学ヨリ見たる人類社会……………	508
13 - 3	最近物質観……………	511
13 - 4	科学の体裁……………	518
13 - 5	一化学者の世界観……………	521
13 - 6	工業教育私見……………	528
13 - 7	立候補に於ける政見……………	533

第14章 科学技術への批判…………… 537

*資料

14 - 1	進化論より見たる我が帝国……………	538
14 - 2	実利と空想……………	540
14 - 3	相対性の問題……………	542
14 - 4	科学万能主義を排す……………	548
14 - 5	伝研移管問題と北里柴三郎……………	550
14 - 6	医師の修養……………	559
14 - 7	学問独立の新運動と其根本問題……………	561

第15章 明治大業史…………… 567

*資料

15 - 1	明治の工業……………	568
15 - 2	明治の理学……………	573
15 - 3	明治の博物学……………	577
15 - 4	明治の建築……………	580

■年	表……………	585
----	--------	-----

■参考文献目録	……………	591
---------	-------	-----

■索引	……………	595
-----	-------	-----